



七十人
バイアンニナ・シカヒマ長老

わたしが5才のとき、家族はトンガからニュージ
ランドに行き、神殿で結び固められました。ま
ず、トンガからフィジーまで船で行きました。一緒
に行った教会員たちは、旅の間ずっと歌っていました。あ
るとき、大きなあらしにおそわれました。わたしたちが
乗っていた船よりも大きな波が来ました。あらしがひ
どくなるにつれ、わたしたちはもっと大きな声で歌いま
した。とうとう、あらしはすぎ去りました。

フィジーに無事に着くと、空港までバスに乗らな
ければなりませんでした。それから、ニュージ
ランド行きの飛行機に乗りました。

飛行機がニュージランドに着陸した後、さらにバス
に2時間くらい乗りました。どんよりとくもった、すす
しい朝でした。バスに乗っている人たちはみんな、話
をしていました。それにぎやかなこと！ 神殿が見え
ると、突然バスは静まり返りました。みんな、神殿を見

ようと、神殿の見える側に急いで行きました。わたし
は、バスがひっくり返るのではないかと思いました。

お父さんは、わたしが神殿をよく見られるように、バ
スのまどに向かってわたしを抱き上げました。神殿は、
まるで雲の中にかかっているようでした。それは、天国
のような光景でした。

何年も前の出来事でしたが、その特別な雰囲気は今
も感じることができます。自分たちが目にしているの
が神の宮だということがわたしたちには分かりました。
それまで、わたしたちは写真でしか神殿を見たことが
ありませんでした。みんなとてもおどろきました。神は
そこにおられるのだろうか？ と思ったのを覚えていま
す。そしてすぐに、これは神様の家だと思いました。も
ちろん、神様は神殿におられます。わたしたちは神殿
で主を見ることはできないかもしれませんが、そこで主
のみたまを感じることはできることは知っています。

リチャード・ロムニーのインタビューから。

かみ 神はそこ におられるので しょうか。



しんでん
神殿
ほうもん
訪問

めいろ
迷路をたどって、
家族が神殿に
行けるよう
なす
助けましょう！